

業者と市民も巻き込んだ 仮置場設置・運営訓練

愛知県豊明市

- 人口※ 67,961 人
- 自治会加入率 約 72%
- 実施時期 令和 3 年度～

※令和 6 年 12 月 10 日時点自治体ホームページ掲載情報

取組むことになったきっかけ

豊明市では災害廃棄物処理計画を策定しており、以前から発災時の一次仮置場の場所も決まっております。市民に公開されておりました。ところが「あれ？グラウンドの鍵ってどこが保管しているんだっけ？」という会話をきっかけに、訓練が計画されました。災害廃棄物処理計画を策定することも重要ですが、絵に描いた餅では、突発的な災害には対応できません。訓練を通して市職員のブラッシュアップにもつながると考えられます。豊明市の災害廃棄物処理マニュアル作成には、一般社団法人愛知県産業資源循環協会が協力しており、当該マニュアルに基づいた本訓練が実現しました。

取組内容

令和 3 年度から令和 5 年度には豊明市勅使グラウンドにおいて、豊明市、愛知県産業資源循環協会の災害廃棄物処理対策に関する特別委員会、同協会尾張北支部会員企業の数社が中心となって災害廃棄物仮置場設置・運営訓練を、令和 6 年度は、都市公園を活用した訓練が実施されました。

令和 3 年度訓練

豊明市勅使グラウンドにおいて、災害廃棄物仮置場設置・運営訓練が実施されました。

令和 4 年度訓練

3 日間の日程で、情報伝達訓練、仮置場設置訓練、仮置場運営訓練が実施されました。

令和 5 年度訓練

大脇区の代表者を対象に、3 日間の日程で災害廃棄物に関する説明会、仮置場設置訓練、仮置場運営訓練、災害時の消毒訓練が実施されました。

仮置場運営訓練では、本物の不用品（訓練を実施した地区で出た不用品）を災害廃棄物に見立て、地区の住民が軽トラックで搬入するといった訓練が実施されました。また、災害時の防疫活動についての説明や、畳の消毒訓練も実施されました。



畳の消毒訓練の様子



搬入訓練の様子

令和6年度訓練

令和6年度は、大根区公民館で、地区の代表者（町内会の班長）を対象としたワークショップを含めた説明会と、都市公園を利用した仮置場搬入訓練の2部構成で実施されました。

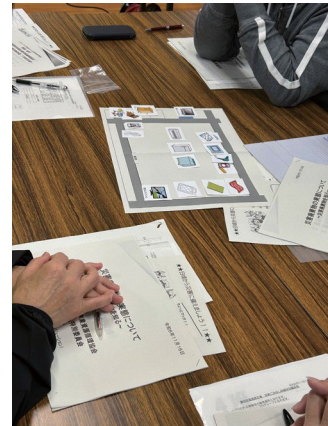
第1部の分別ワークショップでは、「災害ごみ」の分別ゲームを講演の前後で実施し、平時の訓練が大切であると実感できるような工夫がされていました。

第2部の仮置場搬入訓練では、1部のワークショップで学んだことを生かした模擬ごみの搬入訓練が実施されました。

令和3年度～5年度の勅使グラウンドでの訓練を経て、住民から「勅使グラウンドまで災害ごみを持って行くことは難しい」と意見があったこと、また、勅使グラウンドへ搬入するにあたり、都市公園を活用した事前分別の必要性、重要性が考えられたことから、大根地区に近い大原公園を活用した本訓練が実現しました。

参加者と市の担当で当該公園のアクセスのしやすさや環境等についても意見交換が行われました。

令和6年度訓練プログラム	
第1部	大根区公民館ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> 災害ごみ分別ワークショップ（受講前） 愛知県産資協から「災害廃棄物の実態について」講演 豊明市環境課から「日ごろから備えましょう」災害ごみ分別ワークショップ（受講後）
	大原公園での訓練 <ul style="list-style-type: none"> 搬入受入訓練 防災倉庫についての説明（防災防犯対策課） 市長講評 愛知県産資協講評
第2部	大原公園での訓練 <ul style="list-style-type: none"> 搬入受入訓練 防災倉庫についての説明（防災防犯対策課） 市長講評 愛知県産資協講評



災害ごみ分別ワークショップ



これまでの豊明市の災害廃棄物仮置場訓練の概要

市長から参加者に対して、災害への心がけとして、「日ごろから退蔵品の処分が大事」「命が大事」「家具の転倒防止」の3つのポイントが伝えられました。



大根区公民館からほど近い大原公園での仮置場訓練

自治体の声

災害廃棄物対応については、平時・有事を問わず住民への啓発のほか、仮置場の代替地、もしくは分散できる場所の確保や、仮置場運営に必要なミクロな視点での関係先との協定が課題であると考えられます。訓練は毎年度、地区を変え、実施することを予定しています。

